



**IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM**

GR86/BRZ Race 第6戦 十勝スピードウェイ

**突然の不調で予選、ヒート1は21番手に甘んずるも、
復調なったヒート2では12位でフィニッシュを果たす！**

TOKACHI SPEEDWAY

GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズ第6戦

2019年8月17～18日 十勝スピードウェイ（北海道）

晴れ 14周×2ヒート（23台）

予選21番手／決勝第1ヒート21位／第2ヒート12位

ドライバー：中山雄一

レースメカニック：

清水修（GR Garage つくば）

池戸誉（GR Garage つくば）

古市陽治（日立田尻店）

荒川亮汰（ひたちなか昭和通り店）

上野一馬（石岡東大橋店）



IBARAKI TOYOPET RACING TEAMが「GR Garage つくば86R」で中山雄一選手とともに挑む、GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズの第6戦が北海道の十勝スピードパークで開催され、第4戦以来となる2ヒート大会としてレースが行われた。

相次いで発生した台風の影響も考慮し、なにより中山選手が十勝でのレースが初めてとあって、火曜日からサーキット入りして万全を期すこととなった、このレースウィーク。かつてはF3000やツーリングカーレースなど、全日本選手権レースも開催されていたが、スーパー耐久の「十勝24時間」が2008年を最後にビッグレースが行われなくなって以来、86/BRZ レースで初めて十勝を走ったドライバーも増えているが、中山選手も例外ではなかったということだ。

早めの練習開始となったことでドライコンディションも走れたのは、中山選手にとって何よりも収穫となっていた。というのも木曜日からは絶えず雨に見舞われ、遅くサーキット入りしたドライバーの中には、ウェットコンディションしか走れなかったという者も少なくなかったからだ。しっかり走り込めたことで、コースはしっかり学習できたこともあって、練習の締めとなる金曜日の専有走行では6番手のタイムをマーク。本番に期待を抱かせた。

心配された台風10号は、金曜日の夜半のうちに日本海で温帯低気圧に変わり、その頃は十勝地方も強い風雨に見舞われたものの、土曜日の朝にはすっきり快晴に。当初は午前の予選はウェット路面を覚悟していたが、強い陽射しは瞬間に路面を乾かしていった。が、正直なところ、暑さは台風一過の影響なのか、想像以上に厳しく、路面を焦がすまでとなっていた。

加えて前日までの降雨によって、路面はダスティである上に、コースサイドの芝や土はまだ湿っていたために、直前に行われたクラブマンシリーズの予選では、コースアウトする車両が現れるたび状態は悪化。全体にタイムが伸び悩んでいた。

そこで中山選手は、あらかじめ15分間の計測のうちラスト5分間を走行に充てようとして判断。先に走っていったライバルに、少しでも路面状況を向上してもらおうというわけだ。ところが、同じことを皆、考えていたのか、まるでGT500の予選のように開始から間もなくは、誰もコースインせず。4分目からようやく走行開始した車両があったが、やはり想定されたタイムは出ていない。トラフィックも覚悟で、当初の予定どおりラスト5分間から中山選手は走行を開始。

ところが、路面状態の悪化以上に、中山選手のタイムは伸び悩んだ。最初のアタックでは1分37秒649を記すに留まり、続けてのアタックでも1分38秒118とタイムダウンとなってしまう。練習での好調ぶりとは裏腹に、21番手は今季ワースト……。

明らかにマシンが不調だ。そこで予選終了後にTRDの診断機にかけ、状況を調べるも結果は何も異常なし……と。だが、診断機では表れない部分でABSやエンジン等の制御系にセーブモードがかかるなど、何らかの不調を来しているのは間違いない。そこでとりあえずコンピュータにリセットをかけ、続いて行われる決勝ヒート1に備えることとなった。

予選よりもさらに温度は上がり、このレースウィークMAXの暑さの中、14周で争われるヒート1が開始され、無難なスタートを切った中山選手は、まずはポジションキープでオープニングラップを終えることに。2週目には接触出遅れた車両が背後につけ、ひとつポジションを上げる形となったが、ストレートでは明らかに伸びを欠き、3週目には背後につけていた2台にストレートで譲り、次の周にもう1台の先行を許したことから、最後尾に後退する。

そこからはヒート2を見据え、タイヤ温存に中山選手は気持ちを切り替え、ペースを抑えての走行に。トラブルを抱えた車両が終盤に現れたこともあり、最終的な順位は予選と同じ21位となった。

日曜日に行われるヒート2に向けては、できる限りのことはしようと、メカニックは懸命にトラブルシューティングを行うも、根源となる部分は見つからず。それでも一縷の望みを込めて、ブレーキ関連のパーツを交換して、中山選手をグリッドに送り込んだ。

目標はファステストラップ記録による、1ポイント獲得。そこで中山選手はゆっくりとスタートを切り、前との間隔をしっかりと開けることとなった。結論から言えば、ファステストラップは獲得できなかったが、メカニックの対策が功を奏し、マシンは周回を重ねるごとペースは徐々に上がっていく。必然的に前に行く車両との間隔も詰まっていたことから、中山選手は5週目に躊躇なく、まず1台をパス。その後も6週目、8週目、10週目に繰り返されたオーバーテイクショー、そしてその間に発生した上位陣のアクシデントにより、順位を落としていた車両もあったことから、中山選手は12番手にまで浮上する。

あと2台抜けば入賞も可能なこともあり、そのままプッシュし続けた中山選手の前に10番手を争う集団が現れる。最後はそのテールにまで張りつくまでとなったが、間もなくチェッカーが振られて逆転には、あと一歩及ばなかった。

苦しい状況の中、チームとともに最善を尽くしてくれた中山選手には、まったく頭の下がる思いではなかった。そして最後まで諦めないことの重要性を、改めて感じさせてくれたレースにはなっていた。次回のレースは9月14～15日に、ツインリンクもてぎで1ヒート大会として開催される。チームにとってホームコースと言えるサーキットであり、また岡山国際サーキットで行われる最終戦は、中山選手が合わせて挑むカテゴリーとの日程のバッティングにより出場できないため、これが今季ラストのレースとなる。有終の美を飾って「終わりよければ、すべて良し」と言えるレースとなることを期待したい。

#18 中山雄一選手のコメント



クルマは徐々に良くなってきて、最後の周はタイムも良かったし、最後に直りました、ようやく。スタート直後は間隔を空けて、ファーストテストラップを狙ったんですが、取れなかったことを思えば、普通に走っていたらポイント圏内に入れたかも……。でも、そこまで行っていたら、何か別なことが起きていたかもしれないし、むしろ次回に向けては好材料も得られたと思います。

チーフメカニックのコメント ～清水修（GR Garage つくば）～



13日の火曜日から十勝入りして臨んだ今回のレースですが、予選で突如発生した車両不具合により残念な結果で終わってしまいました。診断機にも表れない難易度の高い故障だった事からトラブルシュートに手間取った部分も反省点として挙げられます。今回発生した事象を検証し、次戦以降に生かして行きたいと思います。引き続き応援を宜しくお願い致します。ありがとうございました。

メカニックのコメント ～池戸誉（GR Garage つくば）～



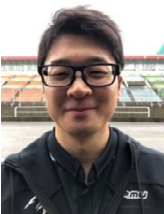
今回、早めの現地入りで順調にセットアップも進み、予選・決勝へ向けて期待がかかるころでしたが無念の結果に。決勝2ヒート目は不満を払拭する快走でジャンプアップに成功。次戦が最終戦となりますので、引き続き皆様の応援・ご協力をお願いします。

メカニックのコメント ～古市陽治（日立田尻店）～



初日から車の調子は悪くなく、予選に向けて車のセットアップ部品交換等済ませて万全の体制で予選に向かいましたが突然車が遅くなり下位に沈んだ時は悔しい思いをしましたと同時に勉強にもなりました。レース期間中楽しく過ごさせて頂きチーム関係者、店舗スタッフ皆様に感謝申し上げます。

メカニックのコメント ～荒川亮汰（ひたちなか昭和通り店）～

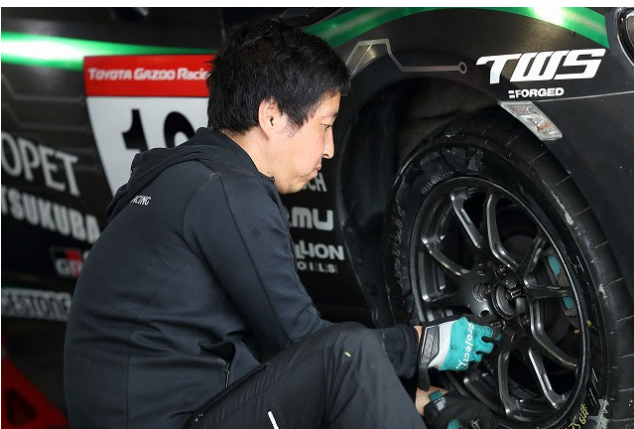


初めてレースに参加して多くの知識を身につけることができとても勉強になりました。速さ、正確さを求められる整備で緊張などもありましたがとても良い経験になりました。チームの皆様、ありがとうございました。次回、機会があればまた参加したいです。

メカニックのコメント ～上野一馬（石岡東大橋店）～



今回のレースの研修では、店舗では体験できない事や店舗でも使えないような知識、レース車両ならではの事など色々な事が学べてとても充実した5日間になりました。研修ではチームの皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。



GR86/BRZ Race

